俳諧

ひさご全

序

文漢海鳴と数年打ち続き
遂に海の鮮まそ八尋鮫小さち
貝を取り石名付け尾の動をん
くゝ二挺立の櫂合を知り馬廉
貝の口あくを待て突き刺
色を刺出し耳て燈篭看
脇て吹く笛れ者を吹く天
赤貝馬代壹べ寺ひの
貴船の色蛭化粧口に十二
文字を結ぶ帯二つ描む
今ちハうゝ〳〵おもひ

個人研究費
澤英末雄
57-02471

大雅堂の清に学ぶ初学
ちりぬるのみちしらふ
ぢつくと一つ花孝付懐紙
対独り歩行と云ふし

歯ぐきめでたやや

独り歩行の

ちりぬるの

冠獨歩行の行
露月点

▲うらうらや揚貴妃の
ゆんぬハ金乃揚貴妃の
手いしもを葛飾俳の札
武蔵が塚を初しろい
ひるやの乃ん世ハ恋震教
貪乃花乃ん世ハ同じ花
▲ぶらくと
水小杜丹が花ぶらぶら
稲夕鳥ハ花乃ぶらぶら
園小月貴桃灯屋

首ゞ物をふゝ天井川
身の山の彫る
▲さらさらり
鹽小舞れ塩用意
鍋の蓋ふむごとく是
▲ひらりと
義経ふなくら乃糸
入し壺乃落ハ伊豆所
鏡乃ふしめ底
炒摘小動く結乃所
あと開ケハ指きら
一調五

▲うしきハ
味噌で煮紙打紙包
る麻布でも大納言
乳房小すゝ子乃かゝ
ゝの位乃一時西
四火れ海老さ乳塩釜
▲そくと
開ク蓋ハきみ茹
する釜茹代白鼠
花を抛クやりの魚
▲さらくと
口で立てさらひ下多大工

障子をあけし藏法
文章そゝふ仲陣の狀
▲さしそゝる
ひとゝ盃をもさゝ面白
女扇子をまもれる
ゝふ月日やかんれくゝ
▲あの人
にらゝて面白
意地わてし九乃は
面白て狂小姓龍田
▲障そゝる
我と部屋の酒を賞ふ

墨形を彫高色の絵
狂子の書び又入言狂同
▲よひとゝを
奇ハ藤生の間茅り
猪ハ鉄炮乃底扇子
勢おのる士れ安話昊
▲行るきて
志儀小思る牛乃前
知人間士が扇て乳
扇子ゲヤ年乃乳
▲立ちて
せあてひぐまて鹿が石

喩 立沢うへ入れる酒
玄蕃うるおくく孔の辺
▲ひろくと
膳香利を潜る漫茶
蓼が薺おス漬屋敷
後家大敷屋よりよせ
▲芋ゆもして
蕎麦をの新食ら
射けを美小膳屋
居れ紙ふ日用
▲ふりもいて
洞ぐらふ掘れかし

貴ふ掘ふ枝の
見の意外を手て
▲外見
茶柱屋て四ふ落葉
ぢぐん悦よすち花代
かもの病ふんすち極
▲祐ろして
多い今青ものか寄
清ものんふ約ふ
御茶お茶原意のやけ
▲書ふりて
一つういふぬ三笠山

鶴の白がけるに佐法者
ほうちひのかげれば
一枝い鷺小ふるの鳥
葉を呑落ぬはかへるも
▲ふるくろもの
毒小汙ぶろ蓑の一毛
石流いれぬ色毛
▲ちうへし
糖繩の罷や望け合仏
蚊食い張ろ庇
牛のふれ
▲ぶやろ小

下毒の弟ろ沢下の糸
花笠弟ブ弟 畑
屋ゥ蛭茂 麻ろ
▲うめ一トめ
於合の毎
我ゥ英同久せ癌癒の秋
形ル小弱ス立鳥慣子
▲のびすぎる
菖蒲ウ一月面
肩いへの字の右左り
下宮の蛭や尾右
抜て肖とする池の

紀ハこうひれ畢葉

▲しそうくく

柔毛ある偏僂師

獏を師をいう人名

早し女芝はひづひま

意て乃よ門岸の冒帝

冒廣巷を意人て金三百

東格巷

▲ぶちうろ

を江すぐふ池の白

屏風の間れ白他

恵沢を乃れば絲豆紀

柳乃塚又柳

風んちや坊を乃で助太郎

▲くされうろ

荒布を禁裡の藻塩草

ちうつと海嵐よと針

伽羅ハ和歌の花筏

▲せろ六ハう

蓋ちかの脇を毎乃命

かれ文字の的石ろ

失鉢いうくち面

▲引ずりて

庭の頂う干菓実

ゆきく宗盛で出まゝ高
盛ふ〻ぞ清く年男
古郷目呼で食喰せ

▲盃やゝ
振まて恵乃自分高
やうて常世と过 編

▲縁ア
余所の客などある子を
鬼ハ鬼欠暮双六

▲歯ぐき
大盃海日小嶋 嬉鹿
泉小仙合ハ酒不量

▲ひ
初附ておき
結ゆ書
物
煙卵で分 辻嶋 焼

▲手持ちく
独ハ参ての鬼毛
何者そしてゐ 仏
古者の海嵐ぢと什

▲持ちて
先孫童ふそ
加嚴川馬乃 仏所

▲毎年

清瀧　瀧の名のあらそひ
布晒　いせやぶしの花
亀脚の長い　桑　蘇
▲きのふ　ふるう
相の字付けてんろう掛
新書を取り出の文
▲書紀は法ぬて
三ぶ命　ぶこいんは　大蓋稲
　　死　新　長
▲くめんはく
でをはら　稲の外
　　寺

▲どれこ　ふるい
かうろく　奥の下り坂
百足　小法　一の　滝
▲ものうう
伊豫　地　長　大工　石
　　と
　　寺
▲ひとこ　きう
花　逆　ても　行やう　小
新　こと　けるこ　嫁　寺
　竹　長　箱
▲紙引　て

氣とゝろ恋れ流ぬ
迄蓋もせぬいとうぬき
子と同合すろ葉の強仕
霧月点

▲盤ろ
ザの武士小七つ弱
白鷺世小南ル屋仮
雲深刈弘高比丘尼
風子点

▲山紅ろ
秋ル茶がらハ江湖寮
一切紙乃古用干

数巻の庶ろ藪笹数

▲同のまへ
課乃同足へ相撲取
ろものの屋ろ横ル雷
大入い数乃寺部
等ろ英丈青 鎬師の姫

▲表先ろ
九星切和スル菖乃ハ
猫乃同扨すむ六ツ六ツ
悟ル雲乃ろら一ツ
和ろの着壺 鍋
一摘為て紙弱の門

霧月五

▲黑くて
ねば弱き髮の髮の
海で濕潤濕
さもどんい和尚のうぶ
黑々ふ紙は郭嚢成
ひるの點い蠅の糞

彩豪点

▲毛帽もうや
宋ありくも優の泥
長の出ふよ
大黑潮スへ手佛師

書の通ひ
金沢をぐと大嶺日
志摩寺点

▲沈もひ
懸奏る眉間尺
雷をぐ
切して踊れまど
鐘をくの
雪ふ龍の風の岡まて

▲鞦韆
山を紙ふ猫の外

耳て幅廣く絵の色
あるつゝ背(セ)に月夏の日なる
唐人らひし耳のうち
彩象兵
▲引つゝけて
かゝりの花を嵐山
天狗の紫の毛の老人
雪ちるぐわく沖の汐
簾相(サウ)る者ゝ毛中兵
鶴(ツル)い沖嵐ゝ門流兵
▲かゝくと
下詰てその名音羽山

つぎ目とん共金幅切り
茶が吹(フキ)上ル釜のもの
服て嗜者(ヨク)やちこ大
さいちそのひ山あり
赤琴兵
△あれこれと
業人(ナリヒト)ちとの百葉花
妄第てあし内石佛
磨の奉こ又六月
そ〳〵想頃の二子山
四季の花ひ名呉服店
彩象兵

△手を打て
陽者ふまづ
推所さり田舎
さるの者の
一銅瓶

△ちらくと
編妻貪の江戸小判
編炭こけて
編炭やりて金の
樂のもの
北斗を書れ松乃枝
△ふをふ

先こゞ
うだらんさ
小僧陀羅尼乃頂
茶乃吟
▲いやらやや
下女寺
代地小取
ぞ松茸を乃知
分ゆもの
恵法師
▲ぐらくと

蛤(ハマグリ)をもて編(ナベ)て地獄(ヂゴク)

日待の和歌(ニチタイ)

おめづらしくも乳(チ)人

▲お目わらい

強くひらを出す咎ふ

味噌(ミソ)こう賣の幸納

朝の眼差(ワキザシ)恵(エ)屋(ヤ)高

▲あらくめて

香(カヤ)源の絵を杜(ホト)冊(タヒ)畑(ハタ)

高度我名と書遠

三月(ミツキ)より来れ内万葉

▲賜(ミヤ)やふ

度中町(ヒ)げそ乳(チ)母(ガ)は

隣(トナリ)の已(ヤ)治田(ヂタ)が

母を引(ヒ)ぐる漆(ウルシ)は

和歌業て拾つく人の面

▲そさうあり

おこと知りあれと貞(モラ)人ふ

おこの指を打(ウチ)ぐる

住(スム)所(ドコロ)で消(スム)行(ユク)郷(サト)

物て屋(ヤ)多(タ)ぐる宵(ヨヒ)吹(フク)竹

風子丘

▲うつくしや

花ふ歓(テンキ)ぐる蝶(チヨウ)と狩(カル)

姫ゆうふ紅葉の枝
あれもで鳴くうぐひす大敵

丹山点

▲うぐひす
鶯でとろ与治郎夕
うづまく雲を煙胴
き合れ義ぢ日と思ひ牛

▲ふりあうぬ
神木樹て男　竹

▲あのつうで
ゆづり氏金うう丈千面
蔵ふ蹴ゝ罷がゝ

▲ちりと
こゆうハ風の歌　味方

▲無理やりふ
鐵ゝ丸ハ不二氏石　孫

▲志ゆしや
ぐいれかうふ客の鱶

▲やうふ
待のりのやいと大和歌
人れ為を黄ゝ面風
器の歯をりく洗ゝ伝

▲くやくと
郭公峰猿　夢

笑イ誠すり狂ル師
にて腹おスそれ切や
花の兵ヒ色宮の梅
好柳点

▲義理ずくで結カク
恋の紐の
▲色をとりて
西鶴若ふるう千年
わへのうさぎちりたりけり
▲ちらしとしく
一筆若衆ル小弛
うそれゆうりハ
業はあやゆて年七年
▲ひらりと蝶
出ぬをい腹の毒里腦
▲よろくと
子秋樂ノ勝ヒ
醫者の腹滑ス癌上り
立和点
▲うろうろ
紙を持ツ
大黒ハ
沖徒の徒と供ろする
▲ちらいろ
路水点

いとの出たる色屋迄
まるまるゝ小糠に成たる上
素羽織
▲はるひろ
山も窟々人の部屋
街どひろまれ浦れうえ
部子い立小はぶされ沢
▲ひろと
英女もまりとかんろ大地
湯屋て踏ゝぶ袋
揚屋色まきさ山の外
行い振たれ山角

風子屋
▲まりまりと
糸遊摺小元結ゝ
餅小合夕字治れ新
奥ゝひまして君子無弁
鞠色合小袖ゝ
紫遊ふゝ無場
寒月屋
▲ゝ
実ゝ藤色の藤
祝河遊ゝ元結ゝ
綿でゝ女房

二対の等の沼の藤
為賊の驚い極絡の
扇山点

▲大分ろ
乾の書で見る
化粧をする
桜木の縄の
一銅点

▲沢山ろ
背板の疲い
横いひごら
こ下や負ケ山

▲はくしい
掛もの白暇
▲何のとして
山焼夏を
ムとて紀り光
扇のそーむ
▲こと書
夏ふ
腔物を
橋ふ計方
酔月点
▲ちろ

七勝の外 意の脉
吾ふい雪ケと仙夜の種
奥へバ見ちし 七柏

▲燥拂イ
蘭の弟あれふ亀
下ノ勺合メ所書の切
湯屋一日 鯔細 ヒ
古編 蓋の別し 宮

▲喜ガすム
ヒ原の侯沸 繰し
風見茅切し 産所際
花盥人のまの 紙サ

▲いくらう
紙もいれ二五翁
反ハ淺草ふ軍リ花
踏とのあらん 歌仁橋

▲こきそびよく
日比丸東間ふ江戸
▲ムムそよ比い
百貫指もす本綿りの
文 臺際ふすろ云宴
猩の宗育とそ
深をふそう浜ロイ長

▲たくう

殘うけ小くさう銅
和代稽ハ江戸の寧
祝藁と賣て[illegible]
竹目ふうろ[illegible]
▲よろこびの
目付ひろ云家の恵

東格点

△[illegible]
眼面めくし自然[illegible]
△[illegible]
吏帰の嶮[illegible]面下地
仕舞の[illegible]海士[illegible]

法師小貫ふちどさう
あり[illegible]あれ子[illegible]やま指

一有点

▲紙四小
[illegible]ふりまれて[illegible]
[illegible]
▲金へて
[illegible]
▲[illegible]

芸用集の[illegible]
[illegible]京かぶちや[illegible]
[illegible]の[illegible]

▲安り
一筆鳥(カラス)やの　蘭
▲あんもりの
寄ふ血を吐行　想ひ
四の字燈(きゝ)かと　所去夢
一路涙(ひとすじ)　十月(ゝ)　さんさ　遊
▲ちるこかふ
年(ことし)も暮ぬすぐへ
▲雪北白ハ
蕊こで史ふ(へ)　鳥(カラス)　猫(ねこ)
俤ゆとりやゆれ　敬
扇子の芝も　祝ひまご

ないの投(なげ)栄(さか)ゆ　山
ゆ　汁ゝ　古　住
梅ゝ　地　級ゝ　田　鶴　子
風子　点
▲永イ　初
三梅ふ引　糸　ゆ
鶯(うぐひす)　温(あたゝ)　の　ち
猩(しやうじ)　ゝ　粥　を　汲　古　酒　ゆ
麻　の　お　居　泉　ふ　泡(あわ)　鶯(うぐひす)
も　点　ち　り　乗(のり)　乗　北　花
▲あんーゝ
冠　ゆ　ち　ぐ　り　野(ゝ)　光

万年茅を敷き門
瞰木綿を乗る紙治郎
元脇一ト尖の鮫が奏

霧月点

▲すみのりと
風てけづけさ海のと
欲のとひ六條田
不二で絵ゆ波田海波
布袋鶴ふ脇ル松付
猫も女よ比丘尼寺
▲ふりとふ

色の黒焼ひし
一張ン宛も蒙の陶
綿縄ゆて氷室守
国と横ニ玉屋
奥の五級寺扇子賣
打数ふ雅を蜆丹
曲水点
▲いそぐ〳〵
脇も出さぬふ歌ル産
市ふ千曲れ
業づけ町さめ巻の蛸
雷雨点

▲氣まゝあるゝ
ぬるゝ事ハ其ハ徒ぞ
小梅ふ立花禅治を
法花ゝ経ハ角田川

▲いそぐ人ハ
此智慧ゝ沖まて敷揺
目ゝ業肉の頭を搖
御撰墨画殺傷禁道

▲必ずして
聞為ル通加寺
墨ふ咎るゝ書
▲我ゝ

加

行云為キ
出雲と仮ム言ハ
▲去まして
夷浜の海の四ケ市
去ハ用ゝとのゝ
年貢ふ為ル 福 大文
葛藤ゝ出ス 俳致付
蜀山自場 奥
聞ゝ海老乃二日醉
▲奥出て
大黒舞乃
為業分ル

彼樽
為

ヒキカヘ
蓋

▲熱ヶ出ス
七粒ずつの梅子　ゆけ
水ニテ仙薬の御服ヲ
と飯粒ニ麦こゞし
一有ル
▲いるくふ
若をして後ふ和尚相
傑て仕立て[illegible]
▲よくゝ[illegible]れい
胃の蛙い茄子　ゆち
▲右たり
おふ餐あり三條と不二

露水点
▲こしひの
玉小針源内の療治
余ッ程うそを[illegible]く者
▲ちぶくゝる
ゑゝうゝやあんま
石河繪い三無野乃
▲おとゞい
ゆんとゝかくふ
▲三味せん
糸掛ゝやちりつてと
ゝゝゝゝ

鮫でしたり也髮やかに
鯛の眼、鳥賊目借と

風子忠

▲凡付方

茅の屋根　小倉山
楢葉　小松　付木の裏
鬼灯　小松　姫が岳
紙屋の高欄　金の鍬
雲壺　猫子海士　小松

露月忠

▲ものすごい
鮫子ヶ表　松樹の庵

[illegible]人ハ[illegible]やれて
公家もそくと　紅杜鵑
屋ハ白代よりの　いかりの白屋
梅ハ[illegible]し　猫を庵の月

▲ふらくと

いでく水を月の宿
常世ぐりも七つまで
もぐ[illegible]つ　梅
見ら[illegible]　石一つ

▲ぶらんぶらよ

波見袋さいて　侍婆
恵美沢大黒　風ド　屠

月をうしなびてうぐいす
▲ちんしゅ屏風
尺八ねを祭ゝ恵方ぐ
織ぶ小袴のしりあて
ゑをて出ゝる和紙ゆ
浦島の袖ゝ色
▲おわけて
尺ゝ仁の袖の
天竺の唐ふひ絲色
さんげの思ひの煙おし
恋の品玉雑いくり
ゝ下おろし繰芋

▲さゝくふ
散ゝ花も根ふ通ゝ稲
夏の浮橋ゝやゝろく
解節恋のいろ縄
死ぬれて惚し蕣
いゝゝもせわ恋の袖
▲そゝや
深の雑の絡り 奏
盗を南ふ御樂
毋て和歌の玉ゝ
布刈の絲見い長疾鬼
樽ふ難風の冷 縄

霜月忘

▲おもてしらや
花で花さく九、十花が加
賀の板の絵の産毛つき
春雨ふゆゆ枝の幹の吉
後を洗ひ乾ひ常陸節
長い毛巻の大　社

▲ひろぐと
紀の海南ふ藻の
醉月忘

▲こよとんで
茶と云字を出す　鈴

傍の柏忘　俗
宮ふ　鬱ふ所毛猫

雷雨忘

▲何の雨ふも
光れがゆ人ふ雲れと
手刺のふ丸金箱
御搬の方が寺丁目

東格忘

▲いさんと
宿義著作来酒屋
女房おど沢加　だこ
御寺此義季番三月

▲ぎうい
明石潟まで雪（ハシタ）見
れば塩干なる所小舟
を庭掛す作業海
▲月をながめて
乳しぼりふるゆる取川
いつまでみさぐ紀女郎花
▲あるとこ
▲ほとゝぎす
別深ぬ月は水
横（ヨコ）いたるの口れ
蝶（チヨウ）別（ベツ）快持て星ながら
▲ちもひろの

枕詞をいてそそいびき
▲せもいとを
かるる第ふもるる沼辺
特（シヤウギ）恋の整ふ二沸（ヒガ）門辺
▲何ものや
赤貝の血ふ月の指
猿ヶ鬚（ヒゲ）掻ケばとドス
▲さのふう
鶏（キヲウ）鬼
鶏（ケキ）の月
名のセつを
いりそ佛よ
蝦ふ扶（ヒヤウ）子を海

みへてふしふさる紙
▲ぎりすりと
ゑやだるり蟬松の葉
好柳点
▲うつひいて
屋起きおれ君の竹
紅引き新仁冷点び
茅此ゑ木八草の王
▲合点
西節のをこむ手代の稽
狩車さ鳥るる
極女獲のそうゑけさ

古竹点
▲ゑしくし
火燈をかめて見分学
▲ゑるびれさ
車めをはへゑれしゑ
風ふかうゑさゑ
かををかとりい
▲ぎりとれ
子秋樂のかくれ紙
ゑけてゑ切ゑい儀
▲うゑゑゑ
不二野乃あふ釈打扇

どれ盗人いこかさまう

▲まつゆくり

女郎の幷筒分いらぬ

河こ吉野小森て美

と度者ぞうゆんでこい

▲そこをのけ

ひさーぐまろさういくさ

和男いい下女てもお裏

▲色ふわまろ

躍かをわくし大天狗

杖ほふり能うろべ

▲いそうや

八丁あるりろ七ち 能

▲ねちはいて

ゆのふをかろ燥そひ

色れくをすろ盗人ち

▲氣ぐせくそ

藻もうんぐかもうち

脇でかんせふひやでぶ

▲ちしぐと

阿亀ぐ死ぬく女 雲

おちよけれ死勝女郎死

▲やさーさよ

盗人浮浪をおいて行

あんでいてくく第十橋

▲ひらそうと

おつかが紬をいそいでいる

やりめ虫んやすまぬ

▲かをそう

そりがかいひがる

▲おつまりて

火燵のかくこ少ぢ白

おりの紙にをすまをる

▲来客

張番するくぐるが色